

平成25年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	174	事業名	観光リーフレット作成助成
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		観光
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	文京区のような観光資源等を紹介するリーフレットを作成して無償配布し、一般観光客の区への誘致を図ります。		
手段	区内観光施設及び名所・旧跡等観光資源を紹介する観光リーフレット及び食に関するリーフレットを、文京区観光協会に補助金を交付して作成し、本区を訪れる方の要求に応えるとともに、文京区観光インフォメーション、シビックセンター展望ラウンジ、東京都観光情報センター及び花の五大まつり等の会場で配布し、観光客の誘致を図ります。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
作成部数	部	85,000	153,000	154,000	101%	153,000	166,000	108%	153,000

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	1,453	3,395	3,395	3,353	3,353	2,725
特定財源	0	0	0	0	0	0
一般財源	1,453	3,395	3,395	3,353	3,353	2,725
所要人員 B	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	1,418	1,379	1,379	1,362	1,362	1,374
総経費 E=A+D	2,871	4,774	4,774	4,715	4,715	4,099

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度		24年度	
25年度		25年度	
【成果】 文の京観光ガイド「おさんぼくん」の作成に加え、東京商工会議所文京支部が主催して選定した「食の文京ブランド100選」を活用した地図入りリーフレット「おいしゅうございまっぷ」の作成を支援しました。また、そのリーフレットを活用した食べ歩きラリーの企画に参画しました。	【成果】 予想を上回る需要により不足が生じたため、23年度は大幅に増刷し、多言語化（英・中・韓）にも対応しました。その結果、まつりのイベントや観光インフォメーション、区内の公共施設における需要にも充分応えられています。新たに整備した展望ラウンジにも同様の配備を行い、好評を博しています。	【成果】 各種まつり会場、観光ガイド事業、各種イベントにおいて、求められる場合に限らず、積極的に配付しました。11月に開館した森鷗外記念館でも当館を拠点にまちあるきをする観光客に寄与しました。おいしゅうございまっぷのリニューアルに際し、メディアにも取り上げられ、利用希望等の反響がありました。	【成果】 食のブランド100選の改選に際し、おいしゅうございまっぷもリニューアルしたこと、これを広く周知する目的で今秋スタンプラリーを実施する予定です。この事業が成功するよう、機会を逃さずマップを配布していきます。
【課題】 観光客に対して無償で配布しているリーフレットの内容を、さらに充実させる必要があります。また、多言語によるリーフレットの品揃えを拡充していくことも必要です。	【課題】 24年11月の森鷗外記念館の開館に合わせ「おさんぼくん」の更新を予定するとともに、「おいしゅうございまっぷ」についても、24年度に「食の文京 ブランド100選」も改選があり内容も更新される予定です。改めて効果的な周知方法や配布計画についての検討が求められます。	【課題】 食のブランド100選の改選に際し、おいしゅうございまっぷもリニューアルしたこと、これを広く周知する目的で今秋スタンプラリーを実施する予定です。この事業が成功するよう、機会を逃さずマップを配布していきます。	【課題】 食のブランド100選の改選に際し、おいしゅうございまっぷもリニューアルしたこと、これを広く周知する目的で今秋スタンプラリーを実施する予定です。この事業が成功するよう、機会を逃さずマップを配布していきます。
指標達成度		23年度	24年度
		A	A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
文京区観光ガイドから、まちあるきをする方を文京区に誘致するために、区内のみならず、隣接区などに各種リーフレットを配付してほしいとの要望があります。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	
23年6月末	拡充	① 事業の展開内容 「おさんぼくん」「おいしゅうございまっぷ」とも毎年需要を勘案し、作成部数を適切に見直していきます。
		② 予算の増減内訳 作成部数及び種類の見直しによる補助金の減 △628千円
24年6月末	改善・見直し	③ 所要人員の考え方 常勤職員 2人×0.1=0.2人 計0.2人
		④ 現状維持の理由
25年5月末	改善・見直し	

平成25年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	176	事業名	フィルムコミッションによる観光振興
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	コミュニティ・産業・文化		観光情報
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	メディアを活用して区の情報発信を行うとともに、ロケ地見学者の集客・誘致など観光振興による地域の活性化を図ります。		
手段	ホームページによる情報提供等により、映画、テレビドラマ、CM等の映像制作者を積極的に誘致し、ロケーション撮影支援を行うことを通じて、区の情報発信を行います。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度		24年度			25年度	
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
HPで紹介するロケ候補地数	か所	0	50	20	40%	60	23	38%	70

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A		226	79	182	101	72
特定財源		0	0	0	0	0
一般財源		226	79	182	101	72
所要人員 B		0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	0	690	690	681	681	687
総経費 E=A+D		916	769	863	782	759

4 評価					
事業の成果及び課題					
23年度		24年度		25年度	
【成果】		【成果】 専門家を招いた市内向け・区民向けの勉強会を開催し、ロケ撮影への協力に向けた機運を醸成しました。また、ロケ撮影の候補地として、坂道等を紹介するホームページを作成し、公開しました。制作者からの問い合わせは年間40件を超え、2件について撮影のための具体的な協力を行いました。	【成果】 映像製作者からの問い合わせは年間約40件となり、7件について撮影のための具体的な協力を行いました。実際に行われた撮影内容が放送される際にはツイッター等を活用し広報することで、広く情報発信を行いました。区有施設での撮影手続き等の整理に着手しました。	【成果】	
【課題】		【課題】 区内でロケ撮影をさらに実現させるため、まずは区有施設等での撮影手続き等について整理する必要があります。また、ロケーション撮影候補地のホームページ等による紹介についても、より積極的に実施することが必要です。今後、より幅広くロケ撮影支援を展開するには、一定のマンパワーが必要になります。	【課題】 区有施設等での撮影手続き等について引き続き整理を行うとともに、関係部課との調整を行う必要があります。撮影にいたるまでの事前の相談対応、ロケハン随行等、職員や施設に相当の負担がかかることから、より充実した事業内容のためには組織体制の検討が必要となります。	【課題】	
指標達成度		23年度	24年度	25年度	
			C	C	

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	拡充	区内ロケ撮影候補地に関する情報提供を行うとともに、映像制作者からの様々な問い合わせに対応します。
24年6月末	改善・見直し	② 予算の増減内訳 時間外勤務手当の減 △110千円 ※職員給与費に移行
25年5月末	改善・見直し	③ 所要人員の考え方 常勤職員 2人×0.1=0.2人 非常勤職員 0.5×1人×0.1=0.05人 計0.25人
		④ 現状維持の理由

平成25年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	177	事業名	観光拠点の整備
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	コミュニティ・産業・文化		観光資源
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	まちあるきを行う来訪者に対して、旬の情報を迅速・適切に提供するため、区内の観光拠点を整備します。		
手段	観光インフォメーションにおいて、お客さまのニーズに的確に応える情報提供を行ったり、シビックセンター展望ラウンジに映像設備を設置したりして、まちあるきを行う来訪者が立ち寄る可能性がある区内の観光拠点を充実させ、情報発信機能を強化していきます。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
観光インフォメーションの相談件数	件	5,567	6,402	5,447	85%	7,362	4,993	68%	8,467
(内訳) 来所相談	件	3,691	4,245	3,838	90%	4,881	3,834	79%	5,614
電話相談	件	1,876	2,157	1,609	75%	2,481	1,159	47%	2,853

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	10,210	10,622	10,385	10,315	10,315	10,554
特定財源	0	0	161	155	156	157
一般財源	10,210	10,622	10,224	10,160	10,159	10,397
所要人員 B	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	2,128	2,069	2,069	2,043	2,043	2,060
総経費 E=A+D	12,338	12,691	12,454	12,358	12,358	12,614

4 評価					
事業の成果及び課題					
23年度		24年度		25年度	
【成果】 観光インフォメーションにおける情報提供に加え、シビックセンター展望ラウンジにおいて観光ポスター掲示やリーフレットの配布を開始しました。地域活動センターとの連携も強化し、地域のお祭りやイベント等の情報共有化にも取り組んでいます。	【成果】 1階の観光インフォメーションは、ポスター・チラシ等のPRが功を奏し、年間27,239人(前年度比3,396人増)の来場者がありました。他所と比較し観光情報が充実しているとの声が寄せられています。また、25階展望ラウンジに新たに映像設備を設置し、観光情報発信拠点として整備しました。区内の観光資源を映像でご案内している外、各種リーフレットも配架し、おさんぼくは年間8,270部の需要がありました。	【成果】 森鷗外関連団体との協定締結に伴い、津和野町と観光資料を相互に配架するなど、観光客誘致の手段を広げました。また25階展望ラウンジの資料配架やポスター掲示についても、観光客誘致の観点は保ちつつ、従来より幅広い対象に対応を拡げました。	【課題】 観光インフォメーションなどの観光拠点について、その場所や提供される情報等についての認知度を一層高めるため、地下鉄駅構内等への紹介リーフレットの設置等、より多くの方に伝える取組を進める必要があります。	【課題】 来訪者の幅広いニーズに応えるため、さらなる観光情報の収集に努める必要があります。また、展望ラウンジの映像機器を効果的に運用するため、観光PR用の映像ソフトのみならず、広報課CATV担当が制作したまち歩きの特集番組を活用するなど、工夫が求められます。	【課題】 区内観光スポットを利用したJ・R、東京メトロ等のイベントと連携を図ることにより、区の観光スポットをPRする機会を新たに得るなど、より多くの来訪者を取り込む方策を模索する必要があります。
指標達成度		23年度	24年度	25年度	
		A	C	C	

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①食に関する問合せが増えており、食の100選の紹介をはじめ、日頃から区内の食に関する情報を入手し提供しよう努めています。また、花まつりの時期には開花状況に関する問合せが非常に多く、現場や事業所管とよく連携して適切な情報提供に努めます。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	
23年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 観光インフォメーションや展望ラウンジにおいて、観光スポットやイベントの紹介など、引き続き適時適切な情報提供を行っていきます。
24年6月末	現状維持	② 予算の増減内訳 時間外勤務手当の減(職員給与費に移行) △25千円 ポスター印刷を行わないことに伴う印刷製本費の減 △42千円
25年5月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 常勤職員 1人×0.2=0.2人 非常勤職員 0.5×1人×0.2=0.1人 計 0.3人
		④ 現状維持の理由 現状の狭いスペース内で、資料配架を工夫したり、接客・相談業務等を効率よくこなしていくことが求められます。

平成25年度 事務事業評価表【B様式】

1 事業の概要			
事業番号	178	事業名	観光土産品開発支援事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	コミュニティ・産業・文化		観光資源
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	文京区ならではの「食」の魅力（おみやげ等）をまちあるきに付加するとともに、事業の周知活動を通じて、区の知名度向上を図ります。平成25年度以降は、継続して販売を希望する店舗及び当該店舗にて販売する文人銘菓の広報を行うことで、引き続き区の知名度向上及び観光振興を図ります。		
手段	引き続き区ホームページ等を活用しPRを行います。区が催すイベント等の情報を参加店舗に提供し、販売促進につなげます。		

2 取組状況	
22年度	
23年度	区内菓子店へのヒアリング結果等を基に、「文の京ゆかりの文人銘菓」にかかる募集要項を作成し、平成24年2月1日より募集を開始しました。募集にあたっては、ポスター500枚・チラシ3,000枚を印刷し、区設掲示板や区立施設、B-1等への掲出を行うとともに、ホームページや区報での募集告知を実施しました。また、区商店街連合会、東京商工会議所文京支部、東京和菓子協会本郷支部・小石川支部等を通じた周知活動も行いました。
24年度	募集要項を確認し販売参加希望のあった店舗において、食品販売資格等を確認の上、計17店舗において平成24年10月1日より文人銘菓の販売を実施しました。販売実施にあたって、区内のまちあるき推進による観光振興につなげるため、各店舗をめぐり食べ歩きスタンプラリーを実施することで、森鷗外をはじめとする多くの文豪者を育んだまちとしての文京区をPRするとともに、区内観光の魅力を高めました。

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A		720	187	2,653	1,845	0
特定財源		0	0	0	0	0
一般財源		720	187	2,653	1,845	0
所要人員 B		0.10	0.10	0.10	0.10	0.05
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	0	690	690	681	681	343
総経費 E=A+D		1,410	877	3,334	2,526	343

4 評価			
事業の成果及び課題			
	23年度	24年度	25年度
【成果】		「文の京ゆかりの文人銘菓」の募集要項を作成し、平成24年2月1日から募集を開始しました。ポスター、チラシ等の印刷物の配布に加え、区設掲示板や区報、ホームページなど様々な媒体を活用して、積極的な募集告知を行いました。	参加申し込みのあった17店舗において文人銘菓の販売を実施し、区内経済の活性化につながるとともに、区内外を問わず好評となり、文の京の知名度も向上した。あわせて開催した当該店舗を巡るスタンプラリーでは、計366口の申込があった。
【課題】		区内菓子店に向けて広く情報発信し、多数の応募が寄せられるよう、周知活動に力を入れる必要があります。また、選定後に積極的なPR活動を行うことにより、「文の京ゆかりの文人銘菓」の普及に努める必要があります。	当初単年度事業としていましたが、好評を得たこともあり、希望があった13店舗には平成25年度も継続して販売を行っていただくこととしました。当該販売継続店舗の情報については、引き続きホームページ等を活用した広報を行う必要があります。
達成度		A	A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況
①
②平成24年度事業に参加・協力いただいた菓子製造業者に対し、継続参加の希望有無を確認しました。その上で参加を希望した業者には文人銘菓の認定を行い、平成25年度以降も継続して店舗で販売を行えるようにしました。

6 今後の方向性		
時点	方向性	
23年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 当初平成25年3月31日で終了としていた文人銘菓の認定ですが、平成25年4月1日以降も継続して菓子の販売が行えるよう認定更新作業を行います。今後引き続きホームページ等でPRを行うとともに、毎年度末に継続販売希望調査を実施し、参加希望店舗の支援を継続します。
24年6月末	縮小	② 予算の増減内訳 事業終了に伴う皆減
25年5月末	縮小	③ 所要人員の考え方 常勤職員1人×0.05=0.05人
		④ 現状維持の理由

平成25年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	179	事業名	観光ガイド事業の充実
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		観光
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	来訪者を温かく迎え、本区を印象付ける魅力の一つとして、区民のおもてなしの心を醸成します。		
手段	区民を中心に観光ガイドを募集し、ガイド技術を十分に育成した後に、来訪者の依頼に応じて、区内観光スポット等を案内する事業を実施します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
観光ガイド派遣人数(延べ人数)	人	—	72	32	44%	144	213	148%	156
観光ガイド事業参加人数	人	—	98	127	130%	376	847	225%	387

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	481	627	372	787	747	651
特定財源	0	0	0	52	22	0
一般財源	481	627	372	735	725	651
所要人員 B	0.10	0.10	0.10	0.10	0.15	0.15
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	709	690	690	681	1,021	1,030
総経費 E=A+D	1,190	1,317	1,062	1,468	1,768	1,681

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度		24年度	
【成果】	22年度はガイドの公募と、養成講座等を通じた知識及びガイド技術の向上に取り組み、一定の成果を上げたものの、予定していた年度中のガイド事業開始には至りませんでした。	【成果】	23年10月から実質的にボランティアガイドの活動が始まりましたが、区報やホームページによる周知等により、各種まつりの際のガイドツアーはいずれも定員を満たしているほか、グループ・個人申込みのツアーも需要が高まっています。
【課題】	本年度後半から本格的なガイド事業開始を予定していることから、積極的なPRによる効果的な周知活動を行う必要があります。	【課題】	区内のまち歩きをする観光客の幅広いニーズに応えるため、さらなるボランティアガイドのスキルアップに努めると同時に、第2期生の養成を着実に進め、併せて新たなルート開発も行います。PRについても、引き続き各種メディアを駆使して効果的に行っていきます。
指標達成度	23年度	24年度	25年度
	B	B	A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①ガイドツアーの参加者から、文京区の観光ガイドの資質の高さを評価され、リピーターも増えつつあります。	
②区民の観光ボランティアガイド数 13名(第1期生6名、第2期生7名)	

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	拡充	観光客の幅広いニーズに応えるべく、未開発エリアでのルート開拓や、観光ガイドの質の向上、需要に充分対応できるだけの人数確保に努めます。
24年6月末	拡充	② 予算の増減内訳 観光ガイド行事保険に加入しないことによる一般役務費の減 1千円 観光ガイド行事保険に加入しないことによる保険料の減 6千円 観光ガイド養成講座を実施しないことに伴う一般委託費の減 82千円
25年5月末	拡充	③ 所要人員の考え方 常勤職員 1人×0.1=0.1人 非常勤職員 0.5×1人×0.1=0.05人 計 0.15人
		④ 現状維持の理由

平成25年度 事務事業評価表【A様式】

1 事業の概要			
事業番号	180	事業名	五大まつり等の助成
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	コミュニティ・産業・文化		観光
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	地域の町会・商店会等で組織する各実行委員会が行う「文京花の五大まつり」（さくら、つつじ、あじさい、菊、梅）及び「文京朝顔・ほおずき市」「根津・千駄木下町まつり」の宣伝・広告及び実施に要する経費の一部を助成することを通じて、地域の発展と活性化及び観光客の誘致を図ります。		
手段	各まつりの宣伝・広告及び実施経費の一部を、町会や商店会等を中心に組織された実行委員会に助成します。		

2 事業の指標															
指標名	単位	22年度				23年度				24年度				25年度	
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画	実績		
来場者数	人	1,782,000	1,857,000	1,704,000	92%	1,912,710	1,614,000	84%	1,970,091						

3 コスト							
単位：千円	22年度		23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算	予算
事業費 A	10,689	10,730	10,693	11,713	11,672	10,400	
特定財源	0	0	0	0	0	0	
一般財源	10,689	10,730	10,693	11,713	11,672	10,400	
所要人員 B	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868	
人件費 D=B×C	5,674	5,516	5,516	5,447	5,447	5,494	
総経費 E=A+D	16,363	16,246	16,209	17,160	17,119	15,894	

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度	24年度	25年度	
【成果】 さくら（3～4月）・つつじ（4～5月）・あじさい（6月）・朝顔ほおずき市（7月）・下町（10月）・菊（11月）・梅（2～3月）まつり等を開催しました。まつりに要する経費の一部を助成するとともに、観光インフォメーションやシビックセンター・展望ラウンジ、区報、ホームページ、B-ぐるにより広く周知するなど支援を行い、地域の発展及び活性化に寄与しています。	【成果】 PRについては公的媒体以外に民間のメディアにも多数協力し、雑誌等への掲載も増加する一方、近県からの観光客も増えています。実行委員会発案による被災地支援物品販売など新たな試みも行われ賑わいを見せました。一方、各会場にて募集するガイドツアーには、毎回区内外から多数の参加者が訪れ好評を博しています。	【成果】 「文京花の五大まつり」及び「文京朝顔・ほおずき市」「根津・千駄木下町まつり」の開催経費の一部助成とともに、ホームページ等を通じた情報発信を積極的に行いました。特に、区民から問い合わせの多い開花状況のお知らせ情報の発信を週2日程こまめに行うことで、各まつりの機運を盛り上げました。	
【課題】 区内外への事業の広報の強化を図るとともに、来訪者の回遊性を高める一層の創意工夫が必要です。	【課題】 各実行委員会の新たな取組等を後方支援し活性化を図るために、引き続き各種メディアを効果的に活用し集客に努める必要があります。その一方で、まつりを担うまちの人々の高齢化が指摘され、今後より多くの中堅層や若い世代を引き込むためにも、まつりの魅力を一層PRしていく必要があります。	【課題】 地域の活性化のために、一層まつりを盛り上げ、また実行委員会の様々な取組を効果的に支援するために、より質の高い広報の手法を検討する必要があります。また、まつりの担い手の高齢化対策としても、若い世代を取り込むPRをしていく必要があります。	
指標達成度			
	23年度	24年度	25年度
	A	C	C

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①	花の開花状況、見ごろ、付近の観光名所等関する問合せが多い。
②	各まつりは実行委員会形式を採用しており、地元区民が企画運営の実施主体です。 ②区内東洋大学の学生が、調査研究等を目的に、下町まつりの運営及びPR、あじさいまつりのイベントへの参加を行っています。

6 今後の方向性		
時点	方向性	
23年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 観光客の誘致と地域の活性化につながるよう、花の五大まつり、朝顔・ほおずき市、下町まつりの各実行委員会に運営経費の一部を助成して実施しています。
		② 予算の増減内訳 時間外勤務手当の減 △315千円（内訳：さくらまつり△115千円、朝顔・ほおずき市△83千円、下町まつり△117千円） 森鷗外生誕150年記念事業終了による補助金の減 △998千円 計△1,313千円
24年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 常勤職員 2人×(0.1+0.1)=0.4人 非常勤職員 0.5×2人×(0.2+0.2)=0.4人 計 0.8人
		④ 現状維持の理由 各まつりは、地域の町会・商店会が連携し組織した実行委員会により主体的に運営されており、区としても引き続き誘客及び地域の活性化につながるよう、PR等の支援を続ける必要があります。
25年5月末	現状維持	